第 11 回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会　議事要旨

1. 開催日時：令和 4 年 03 月 18 日(金) 10:00～12:00
2. 場　　所：千曲市河川事務所 2 階　大会議室 及び オンライン会議
3. 出席者　：平林座長、豊田委員、笠原委員、北野委員、田端委員、傳田委員、
　小松委員(代理：吉川氏)、仙波委員(代理：吉池氏)、小林委員(代理：萩原氏)、
　湯本委員、関委員(代理：北沢氏)、藤澤委員(代理：堀内氏)、水澤委員、
　北條委員、依田委員、齋藤委員　※Web 参加含む
（欠席：島野委員）

【配付資料】

- 資料 0-1_千曲第 11 回検討会議事次第
- 資料 0-2_座席表 設立趣旨 規約 委員名簿
- 資料 1_令和３年度モニタリング調査結果
- 資料 2_千曲川自然再生計画（短期整備）見直し
- 資料 3_地域連携の取組について
- 資料 4_今後の予定
- 参考資料_第 10 回検討会議事要旨

4.議事概要（凡例：「◇」事務局からの連絡、「＊」質疑、「→」回答、「☆」意見）

1）資料２　千曲川自然再生計画（短期整備）見直しについて

＊16 ページの礫河原再生計画の見直しについて、令和元年の砂礫河原面積は見かけ上の面積が除外されているが、平成 11 年の砂礫面積にも見かけ上砂礫河原となった面積が含まれているのではないか。

→平成 11 年頃は、台風 19 号に匹敵するような大規模洪水が発生していないため、レーザー航空測量など詳細なデータが無く、同様の整理は難しい。そのため、平成 11 年の面積は、純粋な自然裸地(砂礫河原)として整理している。

☆計画見直しについて、了承いただいたことを確認した。

2）資料１　令和３年度モニタリング調査結果

☆モニタリングは、非常に重要と認識している。専門家の皆様のご意見を適宜聞きながら、来年度以降もしっかりとモニタリングしていきたい。

◇モニタリング部会の中で、魚類調査の実施時期及び調査結果と放流との関係について指摘があった。更埴漁協及び上小漁協から放流状況について共有いただきたい。

→上小漁協における令和 3 年度の放流実績は、ウグイが 55 kg（支流と本流合計）、ウナギは年によって量にばらつきがあるが、40～50 kg、アユは 3,300kg である。アユは、令和 4 年度は 2,310kg の放流を予定している。

→更埴漁協では、アユ、ニジマス、ウナギ、ヤマメ、ウグイ等、県の指示量に従いながら以下の通り放流している。

・アユ：150kg（現在川の状態が悪くなかなか育たないため、放流量は少ない）

・ニジマス：4 月～7 月で 450kg、10 月～11 月で 720kg、計 1,170 kg

・その他：ウナギ 15 kg、イワナ 2 kg、ヤマメ 1 kg、ウグイ 50 kg

＊砂州の冠水頻度が重要な観点かと思うが、水位はモニタリング調査項目に入っていないのか。

→冠着橋付近では事業実施後に水位観測をしていたが、事業から 3 年以上経過し、観測は終了している。現在事業実施中の網掛地区は、施工完了後に水位を観測していきたい。出水後モニタリング対象の 3 カ所は、流量と水位の関係から整理できると考えて水位観測をしていないが、ご意見を踏まえて水位の観測を検討していきたい。

＊砂州により冠水頻度が異なると推定される。出水時の縦断的な水位の状況や冠水している砂州の場所・頻度が、掘削検討にあたっての重要な情報と考えられる。また、掘削時期と樹木の再繁茂という関係は、掘削時期より掘削面の冠水頻度の影響が大きいと想定される。中小規模出水による冠水状況（縦断水位）の把握が、土砂の堆積と植生再繁茂の関係を解明するためには必要では無いか。

→来年度のモニタリング計画・項目については了解いただいたと認識している。水位については、具体的な観測方法・観測箇所を今後検討していく。

☆アユの生息環境を把握するために、水質の把握が重要であるが、水質観測を実施しているのは信濃川では新潟市のほうに 1 カ所のみである。できれば、連続した水質観測を他でも検討していただきたい。

→維持管理とデータの信頼性の観点から全国でも水質自動監視装置を撤去しているところが多い。水文水質データベースから、月 1 回測定している水質の調査データを確認できるので、事務局から後ほど共有する。

☆水質に関する県のデータは公表している。ホームページ等でご確認いただきたい。

◇コクチバスは、台風 19 号の前は全箇所で確認されていたが、出水後は限られた所のみ確認されている。一方、支川での確認情報もあり、漁協さんから情報があればご提供いただきたい。

→今後、コクチバスに発信機をつけて越冬場を特定し、できるだけ多く駆除をしたいと考えている。コクチバスは、更埴漁協管轄内では 4 月終わりくらいから産卵床ができるとのことだが、上小漁協管轄内は若干水温が低いためか、5 月～6 月に産卵床が確認されている。今年からはできるだけ産卵床・卵の孵化を防ぎ、稚魚については網ですくい取って駆除したいと考えている。

→以前発信機調査を実施した際は、バスが集まっている場所は把握できたものの、水深が深く、捕獲が技術的に困難であった。それ以降、調査は打ち切っている。

☆台風 19 号の出水後のコクチバスの生息状況について、支川での増加状況など情報があればコメントいただきたい。

→去年、浦野川、産川水系では、秋に電気ショッカーを使用したが、稚魚は獲れず、ある程度成長した個体が捕獲されている。また、オオクチバスとコクチバスは一緒に生息しているようである。常田新橋～小牧橋のあたりで、捕獲したコクチバスの中にオオクチバスも混ざっていると聞いたことがある。

◇5 年に 1 回の河川水辺の国勢調査で、令和 4 年は魚類調査を実施予定である。漁協の皆さんにもぜひ協力をお願いしたい。

☆ミツバチの蜜源としてハリエンジュが必要である。河川管理の立場から樹木を伐採する際、これからも配慮いただければありがたい。

☆先ほど事務局のほうからも河道内樹林をすべて砂礫河原にする形ではなく、部分的には残す方針と説明があった。ぜひ配慮しながら対応していただきたい。

☆令和 4 年度のモニタリング計画について、了承いただいたことを確認した。

3)資料 3　地域連携の取組について

☆「千曲川の恵みを取り戻す会」という会が設立された。地域協働の枠組みにいれていただけないか。

→今回はヒアリング調査を実施したのみである。「千曲川の恵みを取り戻す会」には当事務所も参画させていただいており、今後、ぜひ協働をお願いしたい。

4)資料 4　今後の予定について

☆各部会の成果はまた来年にご報告する。

以上